

令和7年度「FDとしての授業相互参観推進」点検評価(大学)

東海学院大学 教育研究開発センター

本学では、文部科学省が提唱する「学修者本位の教育」への転換を実現し、教育理念である「自ら立てた規範に従って行動できる人材」の育成に資することを目的に、平成26年度より「学内一般公開型授業相互参観」を実施しています。

令和7年度は、授業相互参観のブラッシュアップを目的として、前期期間中に全教員を対象とした「FD 活動に関するアンケート」を実施しました。アンケートでは、授業相互参観について、教材提示や学生対応の工夫を学べるなど一定の教育効果が認められる一方で、実施に伴う負担感や、コメント記述時の心理的配慮、報告作成の負担等の課題も挙げられました。

これらの結果を踏まえ、FD 委員会では、教員同士が「評価」ではなく「気づきの共有」を重視できる仕組みへと授業相互参観の実施方法を見直しました。具体的には、「授業相互参観の視点」を作成し参観ポイントを明確化したほか、回答・報告方法の簡略化、「参観可札」の導入による自由参観の促進などの改善を実施しました。また、参観者は、自身の授業改善につながる気づきを中心に記述する形式としました。授業参観後には、FD 委員会を通じて参観者からのコメントを授業公開者へフィードバックし、各教員が授業改善へ活用しました。

全学の実施率は71%(93名中66名)と、教員の7割以上が相互研鑽に参加しています。特に、心理学科(実施率92%)や医療栄養／管理栄養学科(実施率83%)では極めて高い実施率を記録しており、学科内でのFD意識の共有や、組織的な授業改善の文化が定着していることがうかがえます。一方で、実施率に差が見られる学科もありました。今年度は、授業相互参観の実施方法を大きく見直した移行期であったことに加え、後期のみの実施かつ実施期間も比較的短かったことから、日程調整の難しさが影響した可能性も考えられます。今後は、参観のハードルを下げる工夫や、より参加しやすい環境整備を進めていく必要があります。

「授業公開者シート」を提出した教員の88%(50名中44名)が、この取り組みが「授業改善に役立った」と回答しています。他者の視点を入れることが、教員自身の教育活動の客観的な振り返りにつながり、具体的な改善動機となっていることが分かります。

授業公開者の報告率は96%と非常に高く、実施した内容を適切に記録・共有するプロセスが確立されています。今後もFD 委員会では、教員同士が学び合いながら教育改善を継続できる環境づくりを進め、教育の質向上に取り組んでいきます。

令和7年度FD「授業相互参観」実施状況報告表

		全学科	総合福祉	医療栄養／ 管理栄養	心理	子ども発達
授業参観または授業公開のいずれか実施		66名／82名	12名／16名	19名／23名	24名／26名	11名／17名
		80%	75%	83%	92%	65%
授業参観	「授業参観者シート」 報告者数	56名	9名	18名	20名	9名
授業公開	公開授業数	50回	10回	13回	22回	5回
	「授業公開者シート」 報告者数	48名	10名	13名	22名	3名
	授業公開者の報告率	96%	100%	100%	100%	60%
授業改善に役立ったか等の回答数 (「授業公開者シート」より)		44名／50名	9名／10名	15名／15名	17名／22名	3名／3名
		88%	90%	100%	77%	100%